

2. ニシン^{りょう}漁の始まり

和人^{わじん}(※21)のニシン^{りょう}漁が始まった時期は明確^{めいかく}ではありませんが、文安^{ぶんあん}4年(1447)に、陸奥^{むつ}(※22)の馬之助^{うまのすけ}が白符村^{しらふ}(※23)でニシン^{りょう}漁を行ったという伝説^{でんせつ}があります。

蝦夷地^{えぞち}(※24)での本格的なニシン^{りょう}漁は、熊石^{くまいし}(※25)から亀田^{かめだ}(※26)までの海岸線^{かいがんせん}で始まりました。

元禄^{げんろく}年間(1688-1704)に入ると、松前^{まつまえ}の漁民^{ぎょみん}(※27)の中に熊石^{くまいし}より北^{きた}の西蝦夷地^{えぞち}に出稼ぎ^{でかせ}をする人が出てきました。

※21 和人^{わじん}

アイヌの人々^{いがい}以外の日本人。

※22 陸奥^{むつ}

現在の北東北^{げんざい}地方(青森県と岩手県の一部)。

※23 白符村^{しらふ}

現在の福島町^{ふくしま}。

※24 蝦夷地^{えぞち}

現在の北海道^{げんざい}。

※25 熊石^{くまいし}

現在の八雲町^{やくも}。

※26 亀田^{かめだ}

現在の函館市^{はこがて}。

これは、松前^{まつまえ}でニシンが獲^とれなくなってきたことと、人口の急激^{きゅうげき}な増加^{ぞうか}により、漁民^{ぎよみん}の生活が苦しくなってきたからです。

松前藩^{まつまえはん}(※28)は、元禄^{げんろく}4年(1691)に熊石^{くまいし}より北^{でかせ}への出稼^{でかせ}ぎを禁止^{きんし}しましたが、それでもどんどん続^{つづ}きました。

この結果^{けっか}、ニシン漁場^{ぎよば}は西海岸^{さら}を更^{さら}に北上^{てんぼう}し、天保^{てんぼう}11年(1840)に雄冬岬^{おふゆみさき}(※29)より北^{でかせ}への出稼^{でかせ}ぎが解禁^{かいきん}(※30)され、ルルモツペ場所^{ぎよみん}(※31)にもニシン漁民^{ぎよみん}が入^いってくるようになりました。

※27 漁民^{ぎよみん}

漁師^{りょうし}とともに生計をたてる人。

※28 松前藩^{まつまえはん}

現在の松前町^{げんざい まつまえ}におかれた領地^{りょうち}。

※29 雄冬岬^{おふゆみさき}

石狩市^{いしかり}浜益区^{はまえ}の海岸^{かいがん}にある岬^{みさき}。

※30 解禁^{かいきん}

禁止^{きんし}を解^とき自由^{じゆう}にすること。

※31 ルルモツペ場所

現在の留萌市^{げんざい}と小平町^{へいへい}。